

奈良県放課後児童対策推進委員会 概要

- 日 時：令和7年2月26日（水）9：30～11：30
- 場 所：奈良県経済倶楽部 小会議室
- 議 題：（1）放課後子ども教室の現状について
（2）放課後児童クラブの現状と対策について
- 出席者：岡田龍樹委員長、高田聡委員、武元一真委員、利川茂宏委員、畑香委員、船木直子委員、米澤志保委員（五十音順）
- 議事概要：

<開会挨拶>・・・中野こども・女性局長より挨拶

<議事>

<定足数報告>・・・委員7名出席

<委員紹介>・・・事務局より別添委員名簿に基づき、委員を紹介

<事務局より資料説明>

・・・資料01（人権地域教育課）、資料02（こども保育課）

<学校運営協議会との連携について>

【岡田委員長】

学校運営協議会（コミュニティスクール）で議論があれば放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携型が進むのではないかと。

【高田委員】

公民館が主体的に放課後子ども教室（こどもたちの活動場所）に関わっていることは社会教育との連携も図れ、良いことだと思う。

<放課後児童クラブの勤務体制について>

【畑委員】

放課後児童クラブにおいて、職員の事務作業や研修、ミーティング等のこどもがいない時間を含めたフルタイム勤務の体制が求められる。生活できる賃金水準が保障されていれば、扶養の範囲を超えて働くという働き方ができるのではないかと。

【船木委員】

奈良市では、基本的に1日6時間の勤務だが、学校の先生の働き方改革の

一環でこどもたちの下校時間が早くなっている校区がある。勤務する6時間のうち保育時間が中心となり、事務・準備・ミーティング等の時間が短縮されているため、今後どこで時間をとればいいのかという危機感があると聞いている。

【利川委員】

奈良市では、学校の下校時間が早まったことによりこれまでの勤務体制で対応することが難しいため、時差勤務を導入している。様々な意見があり、過渡期だと思っている。

<放課後児童クラブの大規模クラブ解消について>

【利川委員】

奈良市は、学校の施設内に学童保育施設をもうけている。学童保育に通うこどもが増えているので、新しい施設を建てているが、だんだんと学校敷地内の場所が確保できないようになってきている。

【畑委員】

今問題になっているのは、学校の放課後の空き教室を時間貸しで利用するタイムシェア。次の日にはまた学校が使うため、最後には元の形に戻して返還しなければならないというところで、勤務している現場の指導員の負担が大きい。保護者からは、部屋があるのであれば一つのクラブにこどもを押し込まずに他の部屋を使ったらいいという意見も出るが、現場の指導員にとっては、学童保育を行うための準備や人員配置の困難さに苦労するというのが現状。

【岡田委員長】

こどもの数が減っているので、学校の空き教室が出るはず。場所の提供が困難な理由としては、文部科学省の事業か厚生労働省の事業かというところが関連すると聞いている。

【武元委員】

生駒市や他市町村でも学校の空き教室の利用について、学校側の協力に苦労していると聞く。放課後児童クラブは福祉部局、学校は教育委員会ということも影響して、なかなか協力が得られないのが現状。

【岡田委員長】

学校運営協議会（コミュニティスクール）は地域の方々と学校が、子どもたちを見守るといってできている。そこからの発言が突破口に繋がるのではないかと。

【畑委員】

地域の交流は大事で、情報発信することで地域を巻き込み、知恵の出し合いや協力によって解決が図られることもあると思う。

<放課後児童支援員の質の向上について>

【畑委員】

職員間のコミュニケーションが取れていないと、子どもや保護者の対応が難しいという悩みを持つことに繋がり、離職率も高くなる。

勤務の形は、常勤・非常勤、支援員・補助員の違いはあるが、責任者や指揮者がおらず、上司のいない職場で責任の所在がはっきりしていないため、まとまりがなく、個々の意見が強くなり、職員間の人間関係の難しさに離職していく方が多い。

人材不足のなか、多種多様な子どもたちの対応については、研修が大切。あらゆる対応について知ること、保育に関して余裕が生まれる。

障害など発達の特性に関する対応は、巡回の支援に関する補助金が活用・利用されることが現場の困りごとの解消に関わり、雇用の継続や促進につながると思う。

【米澤委員】

放課後児童クラブはお金を払って預けて見てもらっているのに、保護者は、学校や保育園の先生と同じように、指導員にも資質を求めているように感じる。指導員の定着率が低いクラブは、保護者として安心して預けられないが、そこしか預ける場所がないため複雑という声を聞く。

【岡田委員長】

職員の相談を受ける仕組みを整えてあげてほしい。

また、資質向上のための学習の機会がたくさんあった方がいい。指導員がいつでもアクセスできるような学習のツールがあれば指導員の困りごとの解消につながるのではないかと。